

優良賞

祖母の恩と私の将来

张 娣
ZHANG DI

中国のことわざに「家の中に老人がいることは、家の中に宝があることよりまさっている」というのがあります。

私が小さい時、年齢の近い兄弟三人が前後して学校へ通うことになりました。家庭の生活条件は厳しく、両親は私たちの授業料が負担で支払うことができません。祖母は私をふところに抱き、「明日学校へ授業料を持っていくから安心なさい。」と言いました。翌日、祖母は自分で飼育した家畜を売り、隣家から不足分のお金を借り、授業料を払いました。おかげでやっと登校できました。祖母はまた、いつも私を学校へ送り迎えしてくれました。私は幸福でした。

中学校に入り学校で私の成績は優秀でした。家族はとても喜び、早く高校の入試にパスする事を切望しました。ところが自分の願望と裏腹に、中学最後の試験の時、私は突然病気になり、試験を受けることができなかつたのです。祖母は毎日沈みこむ私のそばにいて、優しい言葉をかけました。病気が治り、私は復学しました。しかし、一年半後、私は退学することになりました。弟が高校の入試にパスしたので、両親の負担が増加します。祖母はもう七十四歳になり、体も以前のように元気ではありません。だから私は学校以外で自分の目標を求めることにしました。

祖母は今後必ず役に立つからと、私にコン

ピューターを習うように言いました。またクリーニング店を開いてほしいとも言いました。でも知識や技術が私は分かりません。費用も一番難題でした。友達から日本のクリーニングの技術が特に優れていると聞き、「将来店を開くために実習生として日本に行きたい。」と家族に相談しました。祖母はとても賛成してくれました。最初、反対していた両親もやっと同意してくれました。そして祖母は費用も負担してくれました。そのお金は祖母が生活を切り詰めたお金です。私は涙が流れて止まりませんでした。祖母は私の肩をちょっと叩き、「日本へ行って、一生懸命に実習しなさい。クリーニングの技術を学び、成長して中国へ帰ってきなさい。そうすれば安心するよ。」と送り出してくれました。

私は祖母の恩を忘れません。必ず故郷の人たちに喜ばれるクリーニング店を開きます。そのために日本で先進の技術を学び、「おもてなしの心」を身につけて中国へ帰りたいと考えています。自分の将来のため、夢を叶えるためこの実習生活をしっかり大切にしたいと思います。

私は必ず祖母の恩に応えます。

区分	技能実習1号
国籍	中国
職種	クリーニング
実習実施機関	サンドリーム株式会社
監理団体	日中技術交流協同組合